

三郷市市制施行40周年記念事業  
第4回三郷学フォーラム ～“三郷学のすすめ～「コミュニティと私たち」”

日時:平成24年1月29日(日) 13:30～16:30

会場:三郷市文化会館大会議室

## 1. 開会

### ○木津雅晟市長 ; 開会あいさつ(要旨)

- ・ 総合計画リーディングプロジェクトの1つである三郷学を推進する。
- ・ 各種団体の活動報告から、これからの三郷学の取り組みについて考える。
- ・ 石川久先生による「三郷学のすすめ～コミュニティと私たち」をテーマとした講演から今後の活動の参考としていただきたい。
- ・ 市制施行40周年を迎える。
- ・ 三郷学の取り組みを通して、参加と協働のまちづくりを推進していく。



### ○中野照夫三郷市議会副議長 : 来賓のあいさつ(要旨)

- ・ まちづくりを進めるには、市民の願いや思いをどう行政がとらえ、形にしていくかが重要な課題の一つ。
- ・ 参加と協働のまちづくりの仕組みづくりが大切な方策の一つ。
- ・ 様々な地域での取り組みが、市内の各所で活発に行われていくことによって、三郷学が発展していく。



## 2. 三郷学のこれまでの取り組み

### ○田中富雄企画総務部長

〈これまでの取り組み〉

- ・ かいちゃん&つぶちゃん地域の課題解決ブックの策定  
(平成22年度に開催した『三郷学ワークショップ』で市民と職員が話し合いづくりあげた。)
- ・ 「三郷学講座」及び「三郷学検定」導入指針の策定  
(平成22年度に開催した『三郷学ワークショップ』で内容について話し合いづくりあげた。)
- ・ 三郷学フォーラムについて  
今年、第3回三郷学フォーラム「第1回三郷学大賞(市民・学生による政策コンペ)」を開催(平成23年9月25日)。提案された政策については、計画に位置付けたり、予算化する。
- ・ 三郷学講座の開催  
今年も市民向けの講座や職員向けの講座に、市民も参加できる講座を開催した。

〈これからの取り組み〉

- ・ 三郷学検定の問題を募集します。
- ・ かいちゃん&つぶちゃん地域の課題解決ブックの改訂版を策定する予定です。
- ・ 今後も三郷学フォーラム(政策提言コンペを含む)や三郷学フォーラムを開催します。

### 3. 基調講演

○テーマ 「三郷のあゆみと三郷学」

○講師紹介 三郷市文化財保護審議会会長 堀切 貞司 様



#### 文化財保護審議会

- ・ 昭和45年に文化財保護審議会に関する規則が制定された。
- ・ 第1回調査員として任命され、現在に至る。
- ・ 審議会委員7名で、調査、指定文化財、文化財めぐり等の活動を行っている。

#### 三郷の歴史

- ・ 中世から現在までの三郷の歴史について、再発見し地域の理解を深めてほしい。
- ・ 三郷は大きな川『古利根川(中川)と太日川(江戸川)』に囲まれている。徳川家康が小山から江戸へ帰る時に利用した。
- ・ 千葉は東葛飾、三郷は北葛飾、東京は葛飾と近隣に「葛飾」という地名があった。
- ・ 江戸川沿いの地域に共通の文化圏を形成。三郷は地理的条件から江戸川の交流の源となっていた。
- ・ 昭和31年9月30日に東和村、彦成村、早稲田村の3村が合併し三郷村となった。  
公募により葛飾の二郷半領の「郷」と3つの郷が集まったことに由来し、三郷村という村名になった。
- ・ 現在は平野だが、古代は海の底と言われている。4000年前は中川の低地帯と呼ばれていた。
- ・ 1800年前後の弥生時代末期に人が住むようになり、集落が形成され、農業にいそしんでいた。

- ・ 1300年前に稲作をして人が住んでいたと思われる。
- ・ 源頼朝の家臣、下河辺(庄司)行平の荘園として、北は茨城県古河市、南は三郷までが荘であった。
- ・ 交通の要所として流通の拠点としてにぎわった。川関、渡し場があり、小金街道、水戸裏街道、成田街道、下妻街道などの街道につながっていた。
- ・ 江戸時代は二郷半領にあり、51ヶ村(1つの町会を大字と呼んだ。大字を2~3つ重ねると戸長<sup>こちよう</sup>。大字の長を区長と呼び、現在は町会長と言う)。
- ・ 明治以降、小菅県に属した。
- ・ 昭和31年3つの村が合併し、39年に町、47年に市制施行した。
- ・ 三郷は、水に悩まされてきた。カスリン台風により大変な被害があった。栗橋町の土手が決壊し、その水が栗橋の町を襲い、1~2日かけて水が三郷にきた。二郷半用水は満杯になり、土手から水は流れてきた。来年のための種を急いで稲刈りをした。采女町会が洪水の真ただ中に取り残された。
- ・ 早稲は台風が来る前に刈り取るために早く稲を刈った。蓮沼の宮田さんが宮内庁や明治神宮に1番に奉納し、有名になった。
- ・ 番匠免の堀切紋次郎氏が三郷の米を使って万上味醂を作った。現在13代目。
- ・ 昭和48年に武蔵野線が開通し、都心までの交通手段がよくなり、つくばエクスプレスが開通し、都心まで20分で行けるようになった。

## 4. 各種団体の活動報告

○高州二丁目本町会町会長 成川 滋 様



三郷市協働によるまちの魅力アップ事業

- ・ 協働事業とは、町会・自治会と三郷市双方がお互いに理解・尊重し、対等な関係のもとに協力して実施。
- ・ 高齢者が健康で元気に地域活動をするために～地域交流と生きがいつくり～をテーマに平成23年9月から平成24年3月まで。

#### 高州二丁目町会

- ・ 高州二丁目の一部。国道298号線が中心に通り、小学校区が東西で分かれている。
- ・ 480世帯。

#### 高州二丁目町会(絆)

- ・ 地域住民の親睦と交流を促進し、一層の連携を図る。地域の住民同士が支え合い、健康で安心安全な街を推進することを目的に4つの事業を実施。

##### ① 町会パトロール及び青パト巡回。

道路の側溝の段差。排水溝のにおい→蓋かけの要望。

通学・一般歩行者・自転車も安心して通れるように。排水路は浚渫により悪臭も軽減。

##### ② ラジオ体操・すこやかみさと体操。

子供からお年寄りまでの交流の場。幅広い人からの協力。→子供は地域で育てる事への意識の変化。

##### ③ グランドゴルフ大会と研修。

9月・12月・2月の3回研修。11月20日に大会。

個人競技は個人の責任。団体競技はメンバーの協力が必要。

##### ④ 高齢者交流会

フラダンス・すこやかみさと体操・紙芝居など

東日本大震災を経験して→避難場所では地域の人々と生活する。改めて地域の高齢者との交流が必要と実感。

#### (絆)を通して

- ・ 回覧での募集よりも横のつながりや声かけが大切。
- ・ 東日本大震災で、何が大切なのか教えてもらった。それは、当り前の日常生活が一瞬に消えてなくなると、1日1日を大切に生きること。お互いに感謝して生きることを教えていただいた。

- ・ 国や市に任せるばかりでなく、自分たちでできることは自分たちで行う。知恵を絞って考えること。一生懸命やっていると誰かが助けしてくれる。目上の人をたてて、調和することが大切。点と点が線につながって結んでいくように努力していきたい。

#### ○自主防災組織訓練指導者ネットワーク 沼上 照夫 様



#### 指導者ネットワークとは

- ・ 目的:各自主防災組織の自主性を尊重し、活動による指導者相互の連絡調整を図ることによって、各自主防災組織の活性化と市民の防災意識を高め、地域防災力の向上と確立に寄与すること。
- ・ 発足の経緯:訓練指導者養成講座修了者のスキルアップ、自主防災会主体の訓練実現、養成講座の運営・サポートの要請→修了者へ呼びかけ→多くの修了者からの賛同。
- ・ 設立:平成19年10月20日
- ・ 会員数:120名(平成24年1月1日現在)
- ・ 市内7地区から役員を選出。

#### 活動内容

- ・ 訓練指導者養成講座(応急救護訓練・救出訓練・初期消火訓練の基礎実技)の運営・講師。
- ・ 三郷市総合防災訓練の手伝い。
- ・ 自主防災会による防災訓練の指導。
- ・ 全体会・研修会。

#### さらなるスキルアップを目指して

- ・ 救命講習会の受講

- ・ 今後もこれらの活動を続けて防災知識や訓練技術の向上を目指していきたい。
- ・ ネットワーク会員が三郷市の人材となるとうれしい。その結果、地域の防災力の向上、三郷市の防災力の向上につながればうれしい。

○シルバー元気塾サポーターの会 小宮 育子 様、古作 和子 様、吉原 ノブ子 様



**主な活動内容**

- ・ シルバー元気塾 現在市内22会場で実施。
- ・ 平成10年から14年経過。サポーターの会は丸6年経過。
- ・ シルバー元気塾の教室の運営。1会場、講師1名・講師補助2～4名。2時間の教室。
- ・ 約1700人の受講生。
- ・ 月2回、1回2時間で20回コース。
- ・ 一番気をつけていることは、事故なく、安全に。明るく、楽しく、元気に。笑顔で帰れるように。
- ・ 年間を通して、継続してやることが大事。元気塾がない時は、家でもやってもらっている。
- ・ ひざや腰、肩が痛い人も来ている。自分のペースで無理なく行う。
- ・ 操体法とは、自分の体のゆがみを自分でとる。
- ・ 足の筋トレ・脳トレなどを実演。
- ・ 市内22会場で行っているのので、興味のある方はぜひ見学に来てください。

○健康づくりをすすめる会 in みさと会長 茂木 光男 様



健康づくりを進める会 in みさと

- ・ 平成18年度に策定された健康増進計画「すこやかみさと」を市民活動として推進するために、個人および地域や団体・組織、行政等と協力・連携しながら、一人ひとりが健康づくりに取組みやすい環境づくりを進めることを目的として、平成19年度に発足。

活動内容

- ・ 全体会を毎月実施し、三郷市から受託した以下の「健康づくり事業」を実施。
  - ① ウォーキングマップの作成
    - 平成19年 地区ごとにウォーキングコースを設置
    - 平成22年 改訂版 初版を見直した上、「ICウォークコース」「すこやかみさとレシピ集」を追加掲載
  - ② 広報誌「すこやかみさと」の発行
  - ③ 健康づくり協力店の調査・支援
  - ④ ウォーキングマップの普及
  - ⑤ 「市民まつり」に参加して広報・啓発
  - ⑥ 「すこやかみさと健康体操」の普及
  - ⑦ 「すこやかみさとICウォーク」の普及
  - ⑧ 「すこやかみさと健康づくりネットワーク会議」への参加・運営
  - ⑨ 「すこやかみさとナビゲーション事業」の実施



## 5. 記念講演

○テーマ 三郷学のすすめ～「コミュニティと私たち」

○講師紹介 石川<sup>ひさし</sup>久先生(淑徳大学コミュニティ政策学部教授)



### 各種団体の活動報告へのコメント

- ・ 市役所と上手な関係にあり(それぞれの課と連携している)、活動を発展させている。
- ・ それぞれの団体が相当熟卓した技術を持っている。
- ・ リーダーがユニークである。組織を運営するうえでキーポイントとなる。楽しい活動を行っている。取り組む姿勢や会全体が楽しくなければ、市民が楽しむことができない。

## 6. 交流会

参加者同士の交流を深めました。





## ポスター展示

第3回三郷学フォーラム「第1回三郷学大賞(市民・学生による政策コンペ)の政策提言ポスター」を展示。



